

北竜町

带状疱疹予防接種費用助成について

北竜町では、带状疱疹**定期予防接種・任意予防接種**について以下のとおり助成を行います。



		定期予防接種	任意予防接種
対象者	① 令和7年度内に 65歳 になる方 ② 令和7年度内に 70、75、80、85、90、95、100歳 になる方（令和7年度のみ100歳以上も対象） ③ 60～64歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害があり日常生活がほぼ不可能な方 ※過去に带状疱疹予防接種を受けた方は対象外です。 ※7年度の対象者へは全員に個別通知をしています。		50歳以上 の町民で、かつ該当年度に定期接種対象者ではない方 ※過去に町で带状疱疹予防接種の助成を受けた方は対象外です。
			北空知の委託医療機関にて予約の上受診し、直接医療機関に接種費用をお支払いください。
自己負担額	どちらかのワクチンを接種	組換えワクチン（2回接種） 10,000円/回 （2回で20,000円）	11,030円/回 （2回で22,060円）
		生ワクチン（1回接種） 3,500円/回	4,430円/回
その他	委託医療機関の詳細や、委託医療機関以外の病院での接種を希望する方は、北竜町役場こども・くらし応援課健康推進係までお問合せください(Tel.0164-34-7031)		町立診療所以外の病院で接種した場合は、接種費用の半額を助成しますので、領収書を持参の上こども・くらし応援課窓口までお越しください。

带状疱疹は、体内の水痘（すいとう）・带状疱疹ウイルスが活動を再開することで発症し、皮膚にピリピリとした痛みを伴う発疹などの症状がでます。50歳から発症率が上がり、80歳までには3人に1人が発症すると言われています。

带状疱疹を発症すると、治療を受け治癒しても、带状疱疹後神経痛（PHN）などの後遺症が残る場合があります。PHNが残るリスクは、70代、80代と、**年齢が上がるにつれ高まる**と考えられています。

带状疱疹の予防には、規則正しい生活習慣や適度な運動に加え、予防接種を受けることで、発症の予防や、発症しても症状の軽減化が期待できます。

50歳を過ぎたら、带状疱疹予防接種をご検討ください



带状疱疹予防接種、費用の助成に関するよくあるご質問



Q 2種類の带状疱疹予防接種について、どのような違いがありますか。

A 両ワクチンの主な違いについて以下に掲載します。疑問や心配な点がある場合は、医師・看護師、町保健師等にご相談の上、納得して接種を受けるようにしてください。

		組換えワクチン（GSK社）	生ワクチン（阪大微研）
接種回数 (接種方法)		2回（筋肉内に接種）	1回（皮下に接種）
接種スケジュール		2か月以上の間隔を置いて2回接種	—
带状疱疹に対する予防効果	1年後	9割以上の予防効果	6割程度の予防効果
	5年後	9割程度の予防効果	4割程度の予防効果
	10年後	7割程度の予防効果	—
主な副反応の発現割合	70%以上	接種部位の疼痛	—
	30%以上	接種部位の発赤、筋肉痛、疲労	接種部位の発赤
	10%以上	接種部位の腫脹、頭痛、悪寒、発熱、胃腸症状	接種部位の掻痒感・熱感・腫脹・疼痛・硬結
	1%以上	掻痒感、倦怠感、その他の疼痛	発疹、倦怠感

出典 厚生労働省「带状疱疹の予防接種についての説明書」より

Q 今回水痘ワクチンを接種した後、5年後に带状疱疹ワクチンを接種する時には助成の対象となりますか。

A できません。助成対象となるのは、どちらの带状疱疹予防接種も助成を受けていない方となります。

Q 過去に自費で带状疱疹ワクチンを接種したことがあります。今回接種する場合は助成の対象になりますか。

A 定期予防接種は「いずれの带状疱疹予防接種も受けていない方」を対象としていますが、任意予防接種の助成は町の助成を受けていなければ助成の対象となります。任意予防接種として接種を受けてください。

Q 予防接種救済制度の対象になりますか。

A 带状疱疹予防接種により重篤な健康被害が発生したと認められた場合は、定期・任意予防接種どちらも健康被害救済制度があります。詳しくはこども・くらし応援課健康推進係までお問合せください。

Q 過去に带状疱疹にかかっていますが、带状疱疹ワクチンは接種できますか。

A 接種できます。一度かかった方でも、免疫力が低下した時に再発する可能性があり、ワクチンで予防をすることが効果的です。ただし带状疱疹を発症している場合は、症状が軽減するまでワクチン接種を延期すべきとも言われていますので、その場合は主治医と接種時期をご相談ください。

Q 带状疱疹はうつりますか？

A 带状疱疹は、自分の体内に潜伏しているウイルスが原因で発症するため、带状疱疹がうつることはありません。ただし水ぼうそうの免疫を持たない方は、带状疱疹のウイルス感染により水ぼうそうを発症することがありますので、水ぼうそうにかかったことのない子どもや免疫力が低下する病気になっている方に接触するのは避け方がよいと考えられています。